

## 目の不自由な子どもへ

☆わかりやすい言葉での伝え方を工夫しましょう。

「ここ」「そこ」などの指示語はできるだけ使わず、名前を呼んでから具体的にわかりやすく伝えましょう。

☆さわってわかることが多いので、一緒に体験しましょう。

やってみたい、さわりたいようだったら、危険のない限り、さわらせてあげてください。いろんなことを一緒に、時間をかけてゆっくり体験することが大切です。

☆まずは見守って。…よくわがっている場所は一人で歩けます。

どうしても困っているようなら、声をかけてください。いきなり手や肩をつかんで引っ張ることはやめてください。

☆弱視の子どもの見え方は、一人一人違います。

視力だけでなく、見えやすい視野や、まぶしさ、距離感など一人一人違います。また、全体と部分などや、細かい動きも見えにくいことが多いので、子どもに聞いて確かめることが大切です。



## 耳の不自由な子どもへ

☆話そうとする気持ちがあればコミュニケーションは成立します。

子どもによって聞こえ方はさまざまですが、みんなおしゃべりが大好きです。手話がわからなくても、どんどんお話してください。

☆「対面」でお話をしてください。

相手の唇を読む読話(どくわ) や手話・指文字による表現をすることが多いので、配慮をお願いします。多くの子どもは読話(どくわ)しますので、ゆっくりと口をはっきり開いて話をするのも効果的です。

☆子どもの目線に合わせることも大切です。

筆談、ジェスチャー、補聴器を活用して口話(こうわ)を駆使します。また、読話や手話でのお話も、目線を合わせることは大切なポイントです。



## 病気の子どもや体の弱い子どもへ

☆免疫力が低い児童生徒がいます。

かぜで病状が悪化することもあります。かかわる自分が感染源にならないよう、手洗いや消毒、うがいなどをしっかりしてください。活動場所も掃除、除草などを行いアレルギーをできる限り、除去してください。

☆疲れすぎないように気をつけることが大切です。

健康維持としては、行動の様子や顔色、体温、呼吸など、よく観察し、適度な活動を考慮してください。

☆病気を知られたいくない方もいます。

病気や治療の情報を得た場合は、プライバシー保護に考慮しましょう。



# 障害の特性に応じた配慮と関わり方

## 肢体の不自由な子どもへ

☆いろいろな障害のタイプや援助場面があります。

本人の承諾と確認をとり、家族等から介助方法について聞いて、実際にやってみながら無理せず慣れていくことが大切です。

☆まずは、お話、車いすの押し方から。

障害の重い子どもでも、しっかり雰囲気を感じています。たくさん声をかけてください。また、周りの支援者に車いすの押し方を習い、実際に押させてもらうことから始めるとよいと思います。

☆あなたの趣味や特技を活かして、一緒に活動し、一緒に楽しんで下さい。

「うた」を歌うこと、聴くこと、お出かけすること、スポーツをすることパソコン、車いすダンス、映画鑑賞お話をすること。……みんな好きです。一緒に楽しめる活動を見つけてください。



## 発達障害(LD、ADHD、高機能自閉症等)

### を示す子どもへ

☆注意を向けさせてから具体的に短く話します。「行動や予定の見通しを持たせる」ことが大事です。

外出や一緒に行動する時、予定のメモや写真があると安心です。

☆あたまごなしに「だめ! 」と言われると驚いてしまいます。

禁止語に反応する子どももいます。しかし、「絶対やってはいけないこと」はきっちり教えてください。

☆「良いところは褒める」ことが大切。

話したがりが、目立ちたがり、場の雰囲気を読めない時があるので、そのときは優しく「〇〇をしましょうよ。」と教えてください。

☆かわいくても大人として節度を持った対応を!

お金の貸し借りはせず、携帯の番号やアドレスは教えないでください。

## 知的な遅れのある子どもへ

☆あらかじめ何を手伝うのが保護者や先生、職員から聞いてください。初めてあって話しをしてみただけでは「何を手伝えばいいの? 」と思ってしまう人もいます。その人の「手伝って欲しいこと」に応じた援助が大切です。

☆言葉を話したり理解したりすることが困難な人もいます。

表情や身振り・手振りをつけて、ゆっくりと語りかけて下さい。時には「絵カード」や書いた文字などを見せることも有効です。

☆気分転換を図れる方法を教えてもらっておきましょう。

その人の「マイブーム」の話題や、お気に入りのアイテムを聞いておくこと、活動への参加の支援がしやすくなります

☆人によっては、顔の表情の変化が少ない人もいます。

楽しそうな顔をしなくても気にしないで、じっくり付き添ってみてください。

☆どうしたら良いか自分で判断できない

ときは、すぐに近くのスタッフに助けを求めてください。

